

CGを進化させた生成AIパワー 「量子インターネット」に注目せよ



為ヶ谷 秀一

Tamegaya Hideichi

メディアテクノロジー・コンサルタント

【経歴】

1960年～2001年 NHK・放送技術

2001年～2014年 女子美術大学・大学院教授

2011年～2019年 女子美術大学評議員

現在: デジタルコンテンツ協会 (DCAJ) 評議員・NPOブロードバンド・アソシエーション顧問

シドニーに40か国から5690人 参集

SIGGRAPH-Asia (シーグラフ・アジア) は、米国で開催されるSIGGRAPHコンファレンスより小規模ながらアジア地域の各都市で開催され、2008年シンガポールで第1回が開催された。夏に米国で開催される大会と並び、年末にアジアの各都市で年1回開催されている。第16回目となる大会は、12月12日から15日(4日間)、国際コンベンションセンター・シドニー (ICC Sydney) で開催された。

2020年から3年間は、オンラインによるバーチャル方式や、対面を組み合わせたハイブリッド方式での開催となっていたが、今回は、4年振りに対面による大会となった。登録参加者は、40か国以上から5690人以上と報告されている。

大会テーマは「Connecting STORIES」

米国で開催される大会には、アジア地域から参加する上で地理的な困難さもあるが、アジア各都市で開催される学会は、比較的参加し易いと言える。特に開催都市からの参加者は、地元の学生を中心に初めてSIGGRAPHに参加する人も多く、国際学会での発表の機会として、地域のアカデミーの取り組みも積極的である。また、近年、アジア各都市には、米国やヨーロッパのCGプロダクションなどと関連する企業も増えてきており、CG関連企業からの参加者のモチベーションを高める上でも、コンファレンスの開催が大きな役割を果たしていると言える。

今大会は「Connecting STORIES:ストーリーをつなぐ」をテーマとして、技術が日常的にどのように適用されているかを伝えることの重要性を提起している。

コンファレンスチェア の June Kim氏 (Lecturer, The

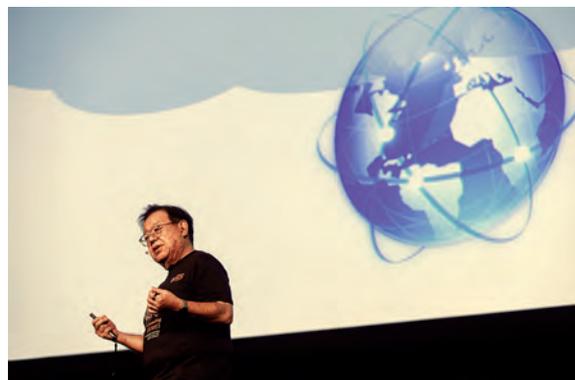
University of New South Wales) は、今大会を次のように総括している。

「多くのシドニーからの参加者には、忘れられないコンファレンスとなった。これまでSIGGRAPHのイベントに参加したことがなかった人も多く、シドニーでの開催は、オーストラリアがますますグローバルなコンピュータグラフィックス業界で重要な存在になっていることを示している。2Dおよび3Dアニメーションの活動が地元で急増しており、アーティストの需要も高まり、これらの分野での地元制作会社の拡大が見られる。また、地元企業が能力を拡充し、CGを活用したコンテンツのシリーズ制作のために、新しい技術も導入している。」

インパクトを与えた村井純氏の基調講演

基調講演では、村井純(慶應義塾大学教授)による「Internet Civilization: A New Frontier for Humankind」をテーマとする講演と、Weta FX社のJoe Letteri氏 (Senior Visual Effects Supervisor) による「Innovation & Avatar: The Way of Water」をテーマとした映画製作におけるVFXをテーマにした講演が行われた。

村井教授は、「世界中の個人をつなぎ、より多くの人々にデジタル技術へのアクセスを拡大し、グローバル社会に多大な影響を与えるインターネットは、未来の社会に向うインフラストラクチャーとして開発を進めることが大切である。」として、宇宙に広がるネットワークや、遠隔での医療などへの取り組みについて、先進的な開発の状況を紹介した。特に注目したのは、将来に向けた量子インターネットの開発への取り組みである。インターネットの活用が広がる中で、高速で大容量のネットワークをグローバルに展開するためには、量子インターネットの開発が



基調講演で村井純氏(慶應義塾大学教授)は「量子インターネットの開発が重要だ」とアピールした ©SIGGRAPH-Asia2023